

手に汗握る激戦

ユー・エス・イーカップ国際女子テニス

5月13日から19日まで、新宝満川地区テニスコートなどで「ユー・エス・イーカップ国際女子テニス」が開催され、7カ国から約60人の選手が出場しました。
18日にダブルスの決勝があり、桑田寛子選手（島津製作所）と柴原瑛菜選手（アメリカ）のペアが優勝。19日にはシングルの決勝が行われ、マリノー・レベッカ選手（カナダ）が優勝。迫力のあるサーブやラリーが繰り広げられ、来場者からは大きな歓声が上がっていました。



シングルスで優勝したマリノー・レベッカ選手の力強いバックハンド



旧アトリエを彩る和紙のモビールと風船

和紙の雲がふわりはんじょうさんの雲

5月11日と12日、坂本繁二郎が描いた作品をイメージしたモビールや風船が、石橋文化センターにある坂本繁二郎旧アトリエを彩りました。
このモビールは、美術家のオーギカナエさんが、4月に開かれたワークショップで参加者と一緒に作った物です。繁二郎のアトリエがあった八女の伝統工芸品である和紙でできています。訪れた人は、記念撮影をしたりして楽しんでいました。

市政の動き

若手職員目線で見やすいサイトへ

市や関連団体のウェブサイトを、より見やすく使いやすいものにしていくため、入所7年目までの若手職員16人が集結しました。
久留米シティプラザや地域産くるめなど16団体のサイトを利用者目線で点検。「情報量が多すぎる」「必要な情報にすぐにとどり着くために構成を見直す」と良い「など課題を整理しました。今後、これらの意見を踏まえ、各サイトのリニューアルを行います。

◎広報戦略課 ☎0942・30・9119、FAX0942・30・9702



職場も年齢も違うメンバー

火災報知器へのIoT導入を提案

久留米広域消防本部の古賀友章消防士が考案した「自動火災報知設備のIoT*導入について」の論文が、全国消防協会が行う論文コンクールで最優秀賞に選ばれました。
IoTを導入した自動火災報知設備とスマホを連動させることで、手元で発火場所の確認が可能に。避難誘導や消火活動が円滑になります。古賀さんは、「夜の福祉施設は、少人数で利用者の安全を守らないといけない。実用化されて、一人でも多くの人命救助に役立てば」と話しました。

◎久留米広域消防本部 人事研修課 ☎0942・38・5163、FAX0942・38・5172



表彰式での発表に向けて、事前演習に励む古賀消防士

*IoT…身の回りの物をインターネットにつないで通信機能を持たせ、状況の確認や遠隔操作を可能にする技術。Internet of Things の頭文字

くるめ学生通信

大学生が、久留米市の仕事取材し、発信するシリーズです。

42 健康のカギは地域性？ 今回の記者：久留米信愛短期大学(1年)古賀友也さん



健康サロンで使う手作りの教材は絵本仕立てで、分かりやすいと評判です

大学の授業で保健師について調べる機会がありました。その中で、地区担当というものを学びました。どんな仕事をしているのか、地域保健課の早田美穂子保健師に話を聞きました。

——保健師ってどんな職業ですか？
保健師は、市民の皆さんの暮らしに寄り添いながらまち全体の健康づくりを担います。最近では生活習慣病の予防や乳幼児虐待対策、高齢者の介護など、あらゆる世代の人々を対象に仕事をしています。

——看護師と保健師の違いは何ですか？
看護師との一番の違いは、保健師は病気の予防や重症化を防ぐという観点から指導したり、相談を受けたりすることです。

——地域保健課の保健師の具体的な仕事は？
校区ごとに担当を持って、健康づくりを支援するところが他の保健師とは違います。個人の健康状態に対応しながら、その地域ならではの課題を見つけ、

それを住民の皆さんに知ってもらいます。その上で、講演や健康サロンを通して、主体的な健康づくりを支援しています。

——地域ごとの違いはどのようなものですか？
例えば、農村部と都市部では食事や運動量など、生活様式が違います。そのため、同じ病気でも原因が異なることがあります。私たちは地域の特性に合った健康づくりを進めています。

——今後久留米市の保健師としてやっていきたいことはありますか？
健康状態は、家庭や地域、その人を取り巻く環境から影響を受けます。家庭や近所で、信頼感やお互いさま意識を持って関わり合うことで安心感や問題の

解決策が見つかると思います。健康づくりを進める上で、人とのつながりが強い社会になるように、しっかり支援していきたいです。保健師の活動をもっと皆さんに知ってもらって、気軽に声を掛けてもらえるようになりたいですね。



コミュニティセンターで腎臓の病気について講演

——今回の取材で保健師は健康づくりを進める上で、人とのつながりを大切にしていることを知りました。地域の中の連携が重要であると再認識し、私も地域活動に積極的に参加していきたいと思いました。

◎広報戦略課 ☎0942・30・9119、FAX0942・30・9702



窓口で生活習慣病予防のパンフレットを見せてもらいました